

第60回神奈川県看護賞受賞者名簿

*各項目とも令和7年4月1日現在
(職種・五十音順、敬称略)

		区分	氏名	所属（所在地）
		功績等		
1		保健師	た な か み つ こ 田 中 美 津 子	開成町こども課 (開成町)
		長きにわたり、地域住民に対して保健衛生の意識の普及及び保健事業に取り組むほか、地域の健康増進の向上に尽力した。教育委員会や児童福祉分野での経験を活かし、役場内のこどもに関するデータを連携し、こどもや家庭のリスクを早期に発見し支援することで虐待を未然に予防する、見守りシステムによる支援体制の整備を進めた。		
2		保健師	ひ ろ な か ち か 弘 中 千 加	公益財団法人神奈川県結核予防会 かながわクリニック (横浜市)
		神奈川県入庁後、長きにわたり保健師として業務に従事。平塚保健福祉事務所在任時には、産科医療機関の医師や助産師、看護師、市町村とともに、「妊娠期からの児童虐待予防リスクアセスメントシート」を作成し、児童虐待防止が、出産前から取り組めると高く評価され、全国で取組が広がった。また、保健師人材育成マネージャーとして保健師の人材育成に尽力した。		
3		助産師	や な ざ さ わ ひ ろ み 柳 澤 裕 美	オリーブ母子相談室 (川崎市)
		神奈川県、川崎市において助産師としての知識や技術を活かし、長年にわたり、地域の母子ケアや育児の支援に取り組むことに尽力した。神奈川県助産師会や川崎市助産師会の理事、川崎市看護協会理事として、各団体の組織力の向上に努め、行政、医療機関、関係団体等と連携しながら地域の母子保健サービスの向上に尽力した。		
4		看護師	た か は し ゆ み こ 高 橋 由 美 子	医療法人健生会朝倉病院 (横浜市)
		県内の赤十字病院において看護部長として、地域包括病棟の立ち上げに携わった。また、新人看護師のサポート体制を整え、効果的な勤務配置の決定を行い、病棟運営に貢献し、新卒看護師の離職率0%を達成した。		
5		看護師	ち し ま み な こ 千 島 美 奈 子	医療法人誠医会宮川病院 (川崎市)
		川崎市立川崎病院において、新型コロナウイルス「神奈川モデル」における高度医療機関、重点医療機関としての役割を担うため、看護部長として効率的な病床運営を行った。新規の加算取得に取り組み、病院の収益増に貢献すると共に、看護師の業務負担軽減を図った。令和元年度より川崎市看護協会理事として、協会の活動を通じ地域の看護の向上に努めている。		

		区分	氏名	所属（所在地）
		功績等		
6		看護師	なかざわ みなこ 中澤 美奈子	医療法人社団晃進会川崎みどりの病院 （川崎市）
		病院と地域、施設等と連携の強化を図り、高齢者医療に携わっていく中で、自施設のラダー教育・人事評価・目標管理を導入し、高齢者医療・健診など様々な変化に対応できる看護師の育成に尽力した。また、多様性を尊重しあう看護部の組織づくりに努め、2017年より外国人看護師・外国人介護職の雇用を開始し、安定した人材確保を推進している。		
7		看護師	なかの なおみ 中野 直美	医療法人社団仁恵会黒河内病院 （相模原市）
		長きにわたり看護現場において活躍。看護部長に就任後は、看護管理者として病院の運営に貢献した。また、相模原市病院協会看護部長会の役員として、就任以降、役員会事業の企画運営など、地域の医療機関の看護管理における活動に尽力した。		
8		看護師	ふじさわ なおこ 藤澤 なお子	学校法人幾徳学園神奈川工科大学 看護生涯学習センター （厚木市）
		臨床及び看護教育の場での経験を活かし、県立病院において管理職を歴任。看護師の教育体制整備にも積極的に取り組んだ。足柄上病院では、病院経営の状況及び医療をめぐる状況を十分に把握し、看護管理者として業務を遂行した。		
9		看護師	ませてる み 間瀬 照美	横浜市立みなと赤十字病院 （横浜市）
		長きにわたり、赤十字施設の看護管理者として、国内に留まらず国際救護活動の派遣及び支援に尽力した。また、地域や赤十字ネットワークの看護部長会役員としても、研修開催やネットワーク支援に携わり地域におけるネットワークづくりに貢献した。		
10		看護師	やまおか すみよ 山岡 澄代	茅ヶ崎市立病院 （茅ヶ崎市）
		地域の基幹病院の看護部長として経営・組織改革に努め、PFMの基盤づくり、ICT活用や業務効率化などに尽力した。神奈川県看護協会の訪問看護出向事業への参加、産後ケア事業や退院前後訪問などを積極的に行い、地域連携に努めている。また、神奈川県看護協会湘南支部理事、認定看護管理者教育運営会議の委員を担い、看護師確保・定着、資質向上の取組に努めた。		